



長嶋茂雄 プロフィール

1939年1月20日生。千葉県佐倉市出身。
 在学中一高→立教大学→関西大学
 1958年 新人王。
 本塁打王、最高打者、打点王、正力賞、MVP、ダイヤモンドグラブ賞など数々の受賞。
 株式会社人脈創成として日本一を二度、今年も満塁を放つ。

ここ数年野球界に限らず、 変革の時代が現実に来ています。



長嶋監督から青年部に贈られた色紙

方ってのは、やっぱり全て違うように、
 大体野球ってのは、同じボールの基礎で、
 一歩はみ出したら、同じボールでね、キッ
 シアでは、どのチームも同じ技術のこと
 やってまよ。そして六、七回という公
 式ゲームで野外的な戦力、チーム編成を
 準備しながらね、さかんにその、編成作
 業を経て、チームのレベルを上げてやっ
 てるわけだし。あとは勝負は勝負に入っ
 たときのね、勝負ってものは勝負として
 ね、出てくるわけなんです。だから、最終的
 には監督、コーチ、また選手の技術、ホ
 シションによって違いますがね、いづ
 れにしても八十一勝はね、当然、優勝す
 るためにはね、必要な数字だし。どうい
 う方法でどういう戦術をもってこの大き
 なね、チーム編成をやるかっていうこと
 で、それを洗い流してやっていくこと
 ですから、ところが今まだね、戦力は五
 ○から六〇程度です。それはもう、
 プン戦が終わった時間ですね、打点がつま
 ますから、そのときにはきちっとした戦
 い方、方法としては、ありまじつからね。
 倉橋 企業活動と同じ様に、戦いに入る前
 のシミュレーションが、戦いに行われる
 わけですね。

長嶋 机の上の数字ってのは非常に獲得力
 のある力をもってるんですけどね、その数
 字だけですべてね、勝負に挑んで、理屈
 を残せるかっていうと、そういうもんじ
 ないですよ。野球ってのは、紹介です
 か、つまり一冊性っていうより多量性
 のスポーツなんです。言葉でどう、
 理論的に言ってもなかなかできないです。
 一方で小さな数字がね、いや、お兄
 ちゃん達うよ、こういうやり方だ。あ
 るんじゃないの。一、二回聞いたら、
 だよ。一、二回という各試合はできないわ
 けですよ。野球って非常にこういうシ
 ャットが無限に広がる。個々の技術がある
 んだから、だから、野球ってのは面白い
 ですよ。



倉橋 また、次の世界の理論に入っていく
 わけですが、野球ってのは勝負でね、毎
 試合活きてるし、序盤、中盤、終盤、三
 回、三回、三回、その時間の中で三時間
 戦のなかでね、その準備をきき出してね、
 点を取るときは準備に取って、二、三守
 とまは投入してですね、二番手、二番手
 投入してもこのインニングだけはね、点を
 与えない。その山を越したらあと二回ぐ
 らい塁勢、展開、展開、後の場合プレー
 ールになったら、一回二回はもう五
 回六回のシミュレーションをやってます。

長嶋 同じくでも小事で良い止めなければ
 ならない。それはコーチ、監督でも大事
 な仕事だと思ってるよ。
 倉橋 夜も目覚めなさい。もう二回ならん
 として、社員を引張っている監督が、
 まさに野球界のリーダーである長嶋監督
 の野球に対する一歩一歩、ファンへの
 「熱意」、勝負における「決断力」、運
 手、試合における「洞察力」、十二分に
 披露させてくれたと思います。それでは
 長嶋監督の長嶋監督の時代について、
 長嶋監督から青年部に贈られた色紙

長嶋 また、次の世界の理論に入っていく
 わけですが、野球ってのは勝負でね、毎
 試合活きてるし、序盤、中盤、終盤、三
 回、三回、三回、その時間の中で三時間
 戦のなかでね、その準備をきき出してね、
 点を取るときは準備に取って、二、三守
 とまは投入してですね、二番手、二番手
 投入してもこのインニングだけはね、点を
 与えない。その山を越したらあと二回ぐ
 らい塁勢、展開、展開、後の場合プレー
 ールになったら、一回二回はもう五
 回六回のシミュレーションをやってます。

倉橋 本日はお忙しい中、長時間に渡って
 貴重なお話を聞かせて頂き、本当に有難
 うございました。



▲写真より、倉橋会長(山崎新監督[大分県]・
 長嶋監督・前中京製薬社長山口剛・村野幸(長崎県)

ブロック大会開催

北海道ブロック大会

平成12年9月1・2日と、道内では初めての砂川YEGとよ新川YEGによる共同主催で行い、327名という過去最大の参加人数となり、大盛況に終ることができました。

今回の大会に当たり、前年より準備を進め、月1回の事務総会議・役員会を設けました。砂川YEGとよ新川YEGの意見を充分に反映し開催された大会だったと思っています。

開催地テーマ「道境」新たな視角。今こそ果敢と勇気のない力での通り、会場は今の固定観念・既成観念にとらわれずに広い視野を持って、経済・行政・あらゆる角度で連携が必要状況になるでしょう。失敗を恐れずに積極的に行動していくことが大切の時代と考えます。

分科会では、真本健氏による講演「北海道で考える」を企画しましたが大会途中で、YEGメンバーの約100名の万々の参加をいただきました。好評開催で環境を自然を伝えることの重要性を強調し、講演を盛り取りました。



関東ブロック大会

第20回関東ブロック大会は、開催地テーマ「友だち100人つくろうよ！とてど娘の星から始まるYEG交流」と題し、平成12年10月13日、グリーンホール相模大野を中心会場として開催されました。

関東ブロックYEGのメンバーをはじめ、全国から80余会、1,255名の若き企業家が集い、記念式典・分科会・懇親会が開かれました。

記念式典は「とてど娘の星」のイメージを取り入れ、若葉社員の口上から始まり、盛大に開催されました。

本大会での、縁・出逢いを通して真の交流がなされることを願うとともに、参加登録をいただいた方々に感謝申し上げます。



中国ブロック大会

平成12年10月21・22日中国ブロック大会を鳥取YEG主催で開催させていただきました。

当ブロック大会は「ふるさととつくり変え隊」と題し、見て（鳥取特産）、聞いて（少子化問題）、触れ（企業）の三つの分科会を通して鳥取の良さを体験していただきたいと考えております。特に懇親会では鳥取ならではの食材を活かした皆さんに専らに堪能していただけたら幸いです。

この大会の経験を、21世紀を迎える今後の鳥取YEGのますますの発展に活かしていきたいと思っております。



東北ブロック大会

東北ブロック大会 米沢大会



平成12年9月22日に、東北六県並びに全国各都府県からご参加いただきましたYEGの仲間と、多数のご来賓のもと盛況に終ることができました。1年間の集大成ともいえる事業でもあり、当米沢YEGにとって最も重要な大会であり、大々的な盛り込みとしてメンバー140名の「無難」と「おもてなし」を結果として開始いたしました。

本体会は特に「上げ橋山」をテーマに、熊山公の人格や、地味（くじ）づくり・モノづくり・人づくりの精神と、強い意志と決意力で果敢に大企業を成長し進歩の行動力を学びつつ、それぞれの地域において実践していただくべく開催いたしました。

本学会の発展に際しまして、ご支援・ご協力いただきました関係各位の皆様、ご参加いただきました皆様心より感謝申し上げます。



鳥羽YEGの为主导いたしました「東海ブロック大会」口商青年・東海ブロック内外の協賛方のご理解ご協力により、大成功に終わりましたことを皆様にご報告申し上げます。皆様方は、鳥羽YEGメンバー一同、心より感謝申し上げます。

大会では国際観光文化都市高松の魅力を学ぶ交流講座をしていただきと自負しております。「IT5超豪華（イット・ショウ・タイム）「大きな夢の実現の為に、飛躍する・高飛する・思い切り生きる」を開催地テーマに、1（伊勢）Y（鳥羽）S（高松）の地から「アクティブ・コラボレーション」共に活動し、共に働き、大企業志向の若手企業も招き入れた第一歩を踏み出し、約1000人の会員が集う事が出来ました。

今後も、地域を支える青年経済人として、奮闘と研鑽に努めていくことを思い、大会報告とさせていただきます。

四国ブロック大会



第17回四国ブロック普通寺大会は、平成12年11月3日から5日にかけて、普通寺町内一円で盛大に開催されました。

四国商工連合会会長様をはじめ、香川県知事、普通寺市長、四国商工連合会連合会長が、おおいにおかけいただき、かつ盛かいお言葉までも頂戴し、あらためて商工連合会青年部としての責務の重さを実感しました。

分科会・記念講演会と会場を移して開催しましたが、どの会場もはば開場となる盛況ぶりでした。その後、懇親会へと会場を移し、四国のメンバーと鳥羽連メンバーとの交流が深められます。これを機会に、今後の青年部活動が充実したものになることと想っております。

ご登録いただいた皆様、ご協力いただいた皆様心より感謝しております。有り難うございました。

北陸信越ブロック大会

第20回北陸信越ブロック大会は、平成12年9月20・21日、魚津市で開催いたしました。

「地域を結ぶ、時代をつなぐYEG新米米産産産」『しんきょう伍郎が活躍する「じゃんと深い2000」』を開催地テーマに、北陸信越をはじめ全国各都府県から、727名ものご登録をいただきました。

この大会を通して東洋YEGのメンバーの絆がより深くなったのはもちろんのこと、北陸信越のYEGメンバーとひとつこのことに加え、喜びを感じあえたことにもより感謝しております。

今の時代こそ、人と人との交流が大仕事だと思います。いざ 新米米産産産産産！



近畿ブロック大会

平成12年9月8日「人の情・智恵の輪・潮ちくわ」をテーマに開催させていただきました。

当日は、940人という参加登録を頂き、参加された皆様より沢山の喜び・感動のお声を頂くことが出来ました。

錢々は、この大会を通じ本当に地域を支える青年経済人として先導者たる気概で研鑽し、行動こそ時代を先駆けるべき青年の責務と責任を命を懸けることの偉大さを学ぶことが出来ました。

この感動・あの感動を忘れずに21世紀における個々の成長で笑顔を如何なく発揮し、さらなる感動を味わいたいと考えています。

当大会にお力添え頂きました、地商連関係者の皆様、御参加いただきました近畿ブロックの皆様、本当に有り難うございました。



九州ブロック大会

平成12年10月14・15日福岡県柳川市で929名の参加をいただき、盛大に行いました。

14日は、有明海防衛・頼川歴史探訪・ソーラーポート体験試乗・アサヒ飲料製菓園 藤岡和彦氏によるセミナーと、四つの分科会を行いました。分科会終了後、頼川白根の川下りで、大懇親会に乗り込みという演出は、参加されたYEGメンバー皆さんに大好評でした。

翌15日は、記念式典の後、大林宣彦氏による記念講演で締めくくられ、昼食後に終了することができました。

「九州は一つ」というコンセプトのもと、私達の「熱き思い」を十分に実感していただきたいことと強く願っております。皆様、本当に有り難うございました。



研修委員会

委員長 藤田 晋一

今年度の委員会事業として、若手経営者の実地研修として実施された「若手塾」、コシナルの立場から述べた「二十一世紀に生き残る中堅、中小企業の特長」というテーマで開催した「第一回ヤングリーダー研修」、また同時開催として、これからの若手経営者の心構えを説かれた日商稲葉会長の講話、そして実際に成功をおさめられている企業のトップとして、第一線で活躍されている、大分県は斐地村「いちご」を製造されている三和通商株式会社社長、熊野製菓の岡野氏。

研修活動の充実という事業計画からすると概ね満足いくものだったと思っております。
本当にこの一年、理事副会長及び委員会メンバーには、ご苦勞をおかけしました。
ここに、改めて御礼申し上げます。
ありがとうございました。

広報委員会

委員長 田中 拓朗

委員会活動としては、商青連機関紙「再生」2号発行・配布を実施。そして、この「再生」30号記念号は、全国の商工会議所議員の方々へも日商を通じてお届けしました。また、商青連の活動を御理解いただけるものと思っております。

他にも、商青連ホームページの改訂・維持を行いました。掲載内容を一新し、サービサーを日商のサービサーに移行し、定期的に内容を更新してまいりました。
新しい試みとしては、倉橋会長と長嶋茂雄氏の対談を行い、対外的に商青連をアピールいたしました。また、任期終了直前に、倉橋会長のアリガタ「思いつき」によりYEGの大賞という企画が急遽浮上し、最後まで「他の各理事が打ち上げをやっているのを横目に尻ながら…」忙しい仕事をさしていただきました。
広報委員会は、矢口副会長以下

八名のメンバーで昼夜に亘り精力的に活動してまいりました。役員間・委員会メンバー間の相互理解を深め、今後の商青連活動に少しでも役立つものを残せたのではないかと思います。一年間、有り難うございました。

企画委員会

委員長 鈴木 惇介

この一年、全国大会と会長研修会という商青連の二大事業を担当する我が企画委員会は精一杯議論をし、精一杯活動しました。次期開催地も慎重決めていただきました。プロック大会にも全てお邪魔をし、式典のスミーズ運営のお手伝いをさせていただきました。そして、これらの大会の開催の手引書も作成いたしました。商青連にとって重要なイベントのお手伝いができたこと、そして倉橋会長のもと、「戦う青年部」の先鋒として活動できたことを、私達企画委員会一同は心より感謝し、また、誇りに思っています。

総務委員会

委員長 高橋 宏平

今年度総務委員会では下記の活動をいたしました。
一、特に今年度特記する事項は、規約等の検討を重点に行いました。

- ① 業年度より日商の定款に青年部が載ることによる、青年部の規約やその他の事項についての検討を行いました。
- ② プロック大会開催の手引書を作成し、開催地にわたってのサポート、商青連、日商の位置付けなどを明確にしました。
- ③ 通常活動として、
一、連常七回の役員会、二回の会員総会の開催運営
④ 会員拡大について
⑤ その他、委員会に属さない事項についての検討
以上御報告申し上げます。

アントレプレナーズ委員会

委員長 竹川 博子

平成十二年度のアントレプレナーズ委員会は、実に一〇〇名を誇る委員会メンバーを擁し、「環境部会」、「地域振興部会」、「情報化部会」、「ベンチャー・ビジネス部会」の四部会編成により、人的ネットワークの構築、ビジネスチャンスの発掘等、より実践的な経済活動の研究・推進につとめるとともに二十一世紀を担う青年経済人としての資質向上を目指した委員会活動を進めて参りました。特別委員会として発足後六年目を迎え、その活動が日々充実度を増し、当委員会への期待も高まる中、この一年をどのような方向に伸ばせばよいか、期待と不安が錯綜する日々の連続でございました。しかし、振り返れば、理事各位をはじめ、参加いただいた一人ひとりの熱意と行動力により、その不安も杞憂でありました。

商青連の委員会活動は、原則として一年という単年度制の中で結果をどのような形で出すのかが問われます。しかし、YEG活動は結果だけが全てではなく、そのプロセスの中で何を感得し、何を考え、何を学ぶかが一つの重要な要素だと思っております。一年という限られた時間の中で輩出されていく人間が、どのような考え方をし、どのような夢を持ち、それをどのように膨らませ、実現することが出来るか、それが当委員会も含め、今後の商青連活動の重要な鍵となるような気がいたします。

二十一世紀に向けて、商青連並びに当委員会が今後も継続されていくためには、その活動が単なる経済的活動のみにとどまらず、行政的対応の要請活動や、中小企業支援に関する、活動が更に推進するとともに、その活動を各甲会にフィードバックするべきだと思っております。
情報化が叫ばれる現代社会において、ネットワークの重要性が認識される中、商青連、そして当委員会がそのネットワークの核となり、重要性の意図を問いかけていかなければならないと思っております。これからの二十一世紀、地域の、ひいては日本のリーダーシップを取るべきは我々であるということを認識し、一人ひとりが青年経済人としての自覚をもち、オピニオンリーダーとしての資質を日々磨き上げればなりません。そのような気概を持って行動することが、地域、そして企業の発展に繋がっていくのではないのでしょうか。

創立45周年記念事業

宮津 YEG



昭和30年、全国で初めて商工会議所青年部が宮津に設置され、2000年という節目の年に創立45周年記念事業として「青年部発祥の地記念碑」を建立しました。

記念碑のデザインはインターネットなどで全国の青年部に広く募集し、多数の作品が寄せられ審査の結果、宮津YEGのデザインが採用されました。

除幕式は、近畿ブロック大会宮津大会の前日の9月7日に45周年記念式典と併せて執り行い、同大会に花を添える記念すべき事業となりました。



YEG 45周年記念式典と併せて執り行い、同大会に花を添える記念すべき事業となりました。



西暦二〇〇〇年は私によりまして、まさに激動の一年でございました。当委員会を通じて多くの有益な経験、また、多くの入会者の進出の中、私自身大きく成長させていただいたような気がいたします。

この一年、アントレプレナーズ委員会に関わってくださいました全ての皆様に対しまして、心より感謝申し上げます。合掌。



第20回商工会議所青年部全国大会

鹿児島大会開催



第20回商工会議所青年部
全国大会 鹿児島大会
大会会長
大脇 唯眞

錦江湾にモッコと松を下ろし、雄々しくそびえ立つ長尾を眼前に、20世紀最後のとりを養める鹿児島全国大会となったわけですが、創設から西山の雄略をいまだに継承することが出来たことに、心より御礼を申し上げます。

甲会・都連が一九となったこの大会、会費減の趣意並びに各種のブロック代表理事の皆様方、そして何よりも全国の会員の皆様方からの厚き支拂に支えられたことが、我々にとっては目に眩えない大きな原動力となり、成功裡に導かれた最大の要因だったのではないかと思います。

天候にも恵まれ、程よいササナギの火山灰が舞う中、錦江湾を穿った土壇頭地比場での大懇親会が、商青連理事並びに有志による博覧会により華々しく展開されました。あのスタートダッシュこそが、鹿児島大会の明暗を左右したと言っても過言ではないでしょう。

大会のキャッチフレーズは「まんなまる鹿児島」でありましたが、主旨が熱意であるが故に、この大会を通して生まれた確信、そして一つはまんなまるこそが出来たという確信は、これからの鹿児島商連の大きな財産となって残って行くものと自負しております。

また、物事すべきは、ビジネス交流アササと物販展です。これに於きましても、全国のメンバーの皆様方より多大なるご尽力を賜りました。この場をお借りして御礼申し上げます。

最後になりますが、明治維新で幕末の動乱期を熱き血潮で染め、青武者の集結であったこの鹿児島で代りなれた全国大会が、商青連の男たる雄略の印を刻みながら、これからの鹿児島商連の歴史に刻み込まれることをご祈念し、そして二十一世紀から始まる新たな空の扉を開き、来るべき「新世紀」の全国大会に期待しつつ、私の挨拶とさせていただきます。

有り難うございました。



第20回商工会議所青年部
全国大会 鹿児島大会
大会実行委員長
妹尾 隆哉

「第20回商工会議所青年部全国大会」のご報告を申し上げますと共に、意礼とご挨拶申し上げます。

商青連スローガンに「熱誠をむすぶ、時代をつなぐY世代の新たな創造宣言!」、開催地キャッチフレーズに「まんなまる鹿児島」、大会コンセプトに「Mother Earthここから生まれるY世代新世紀」と掲げ、2000年11月16日～19日の4日間(本大会17・18日)にわたり、300甲会、11,075名の登録を得て開催されました。

今日の経済状況や本土島嶼間という地理的状況を考えますと、この場にたくさんのご参加をいただいたのも、商青連をはじめメンバーの熱い友情とご協力のおかげだと思っております。まずもって心より御礼申し上げます。

本大会は、17日の親睦ゴルフ・新治青懇親会を皮切りに、17日の開青連総会、全国総会と進行いたしました。

分科会は、「火の歳暮」・「星の歳暮」・「史の歳暮」さらに「経済活性化・レニウム記念講演会」・「21世紀のアントレプレナーズへの提言」と題して開催、商青から生まれたものをキーワードに、鹿児島を学んでいただきました。

分科会の後に、全大会初日の野外での大懇親会を開催、鹿児島が誇る錦江湾に浮かぶお島島を眼前に望むというロケーションを堪能していただきました。また、飲食は、熱内の地産全銘柄を集め、「ウェルカムさつま亭」など、「お祭りのカント」形式を試みました。

そして18日、「記念式典」・「記念講演」を市民文化ホールにて開催しました。(会場の関係上、ホールが分散してしまいう九州ブロックの皆様にはご迷惑をおかけしました。この場を借りてお詫びを申し上げます。)この日に大会記念CD・DVDを制作、今後のビジネスに少しでもお役に立てばと思っております。

最後に、様々な制度改革や規制の緩和、今後のグローバルな競争社会の中で、既存の枠組みでは計り知れない変化への対応を迫られている中小企業の今後を担っているのが私たち青年部であります。それぞれ地域経済の時代を担う産業界のリーダーとしての覚悟を持つことが我々の使命だと思います。皆様とのご活躍とご健勝を祈念して、ご挨拶とさせていただきます。



▲次年度全国大会 初めての挨拶



▲保岡新法務大臣と有村アナウンサー



▲高30回青年部全国大会



▲夜舞踊い踊み



▲大懇親会のオープニング



▲加賀でワッショイ!入場



あいち
半田会議開催

平成12年度
全国会長研修会

2001年
2月
89

地域を結ぶ、時代をつなぐYEG 新未来創造宣言!!



Shake hands in HANDA

山手・泉の街、半田から21世紀の息吹きを...



**会長研修会を
ふりかえって**

全国会長研修会実行委員会
実行委員長 東浦 右智

五年間に渡り講演・計画・実行してま
りました全国会長研修会あいち半田会議も無
事終了いたしました。これも一重に全国Y
EGの皆様の深いご理解とご協力の賜物と
感謝申し上げます。最終の登録数は、〇
五九名、参加登録単会数二七二単会を数え
ました。この数字は、二十一世紀に半田Y
EGが今後背負っていくものであり、メン
バー一人ひとりにとっては自信となったこ
と確信しております。全国YEG皆様本当
にありがとうございます。

YEG 大賞 決定

今年度、各ブロック大会、並びに会長
会議に於いて、商連会長との懇談会を
実施した中、全国各地のYEGが開催し
た一押し事業を商連会長の想いのもとY
EG大賞として表彰する事となり、担当
を広報委員会が行い日商より全国のYEG
に募集をした。

期間が短く心配であったが、三十二YEG
より素晴らしい事業の応募があり、
二月七日、午後三時より全国会長研修会
あいち半田会議のメイン会場であるサンク
ルにて2時間におよぶ選考会を実施した。
その結果、春日井YEG「春日井ウイ
ン物語」、島津YEG「GAMADAS
げんき塾」、加西YEG「サンタクロ
ス宅配サービス」、広島YEG「広島メ
ッセセミナー」、天童YEG「天童冬の陣(早
成鍋合戦)」、関YEG「月刊紙トナン
カン」、上野YEG「いがうえの20
00年マップ&伊賀上野熱血商人」以
上七YEGを大賞として選出した。

表彰式は二月九日、会員総会終了後、
田中広報委員長司会のもと矢口副会長よ
り受賞YEGの発表、受賞理由の説明の後、
倉橋会長より賞状と賞金を贈り、全員の
拍手によって無事終了した。

なお後日、開青連のホームページ上
にて全国YEGメンバーに発信する事とする。



▲YEG大賞受賞風景

応募単会リスト

山形県天童YEG	『天童冬の陣「早成鍋合戦」』
岩手県釜石YEG	『宮澤政治世界C』
和歌山県新宮YEG	『二果交流博覧会』
徳島県鳴門YEG	『徳島ひょうたん魚川祭り』
福島県会津若松YEG	『あいづ食と旅館の祭典』
兵庫県加西YEG	『サンタクロース宅配サービス』
岐阜県各務原YEG	『17先達国インド訪問』
宮崎県小林YEG	『ファミフェスタ』
神奈川県藤沢YEG	『湘南・江の島手作りリポートレズ 「中野九磨市」』
長野県中野YEG	『中野九磨市』
京都府志津YEG	『商工会議所青年部発祥の地記念博 「食・遊・祭2000Hセンター」』
三重県伊勢YEG	『GAMADASげんき塾』
長崎県島原YEG	『赤ピー大賞グランプリ』
神奈川県小田原YEG	『「広島YEGメッセ2000」』
広島県広島YEG	『豊川大作戦2000』
愛知県豊田YEG	『「タオルテザイン展」』
愛知県春日井YEG	『「ロマンティックイルミネーション」』
愛知県春日井YEG	『「春日井ウイメン物語」』
新潟県村上YEG	『「深夜ナイトパザール」』
愛媛県西条YEG	『「ときめき通り・さらさら物語」』
岐阜県関YEG	『「月刊紙トナンカン」』
鳥取県鳥取YEG	『「2100年未来新聞」』
千葉県柏YEG	『「東島青年経済人交流会」』
三重県津YEG	『「ウェルカム21」』
福島県福島YEG	『「ロマンチックあつまつ」』
栃木県宇都宮YEG	『「パンパ仲見世2000」』
三重県上野YEG	『「いがうえの2000年マップ」』
愛媛県宇和島YEG	『「新うわじま郷土料理コンテスト」』
兵庫県加古川YEG	『「インターネット喜劇店」』
奈良県大和郡田YEG	『「コリアガーデン事業」』
愛知県岡崎YEG	『「企業フェア開催」』

全国商工会青年部連合会との懇談会

平成十二年十二月四日
第一ホテル東京シフオーブ



▲商工会青年部役員
右から丸村祥史(副会長)・南本一(青年部長)・副会長・佐紀
重敏(副会長)・千原



▲商工会青年部連合会会長と商工会会長

青年部連合会会長より、現在商工会が直面している問題並びに今後の有り方等が述べられた。

両団体とも、外形標準課税への取り組みなど活動の共通点も多く、地方の中小企業の生の声を中央に対し届けることの出来る団体として、今後の連携を計ることに由る効果並びに情報交換の重要性について、約一時間ではあったが、終始出席者の積極的かつ真摯な意見交換がなされた。今回を第一回目とし、今後継続的に懇談会を開催することを約し、閉会となった。

昨年十二月四日第一ホテル東京シフオーブにおいて、全国商工会議所青年部連合会と全国商工会青年部連合会との、初めての懇談会へ意見交換会が催された。

冒頭、商工会長より記念品が贈られ、和やかな雰囲気の中懇談が始まった。出席者の自己紹介の後、商工会長より、昨今の経済状況を鑑み団体を越えて連携・交流を計りたいと日頃より考えていた旨が伝えられ、それを受け渡す全国商工会青年部連合会会長より、現在商工会が直面している問題並びに今後の有り方等が述べられた。

商青連会長と単会ブロック会長との懇談会

質疑応答 Q & A

商青連会長からの強い想いで、春のブロック会長会議、秋のブロック大会の折に、各ブロックの単会会長と商青連会長との懇談会を開催致しました。主な質疑応答内容を紹介いたします。

Q: Y.E.Qは、日本青年部にならないの?

A: 歴代会長を始め、過去にその件については議論が上がりましたが結局は、会議にも話をしたことも持っている。今は日商の定款にも記載されていないことある。しかし、あまの月商青年部と違うことに拘らなくても良いと思う。実態を上げていきたい。日商は東京の会長があるが、Y.E.Qは各地から全国の会長になれる。地方の様々なことを中央へ伝えられる。

Q: Y.E.Qに対する日商の評価は?

A: 過度に中小企業を軸から外周に変わってきた。97%の中小企業が日本を支えてきている。日商も我々青年部が30年を過ぎて、その活動に対して研修や研修活動に対しても大変評価をしている。さらには最近取組等にも評価をしていると聞いている。

Q: Y.E.Qの定年制の全国統一は?

A: 基本意には、地域に依存が状況です。J.Cが40歳、40歳くらいが良いと思うが、地域に依りては総合で早く入ってほしいために定年が良いところもある。実際は定年を上げるのと関係が薄くていい。定年制問題については各ブロックで多く出ているのであらかち商青連で検討したい。

Q: J.CとY.E.Qとの関係について

A: それぞれの定年制の違いがあるが、同じ地域であるので双方の協力と交流によって、素晴らしい地域活性化に繋がる活動に発展してほしい。

Q: 法人会とY.E.Qに入会しているが、法人会中心だがY.E.Qは、どのような活動をしたら良いのか?

A: 法人会は材料を思えるが、Y.E.Qは、効率良い販売を考えたなるべく現金を動かさないように勧誘する。しかし、活動については、Y.E.Qと法人会とが、集約なエスシーを使わず活動のジョイントをしては。

Q: 商青連とは、何?

A: 商青連とは、役員の情報がない山あり、そのデータを使って欲しい。しかし、そのデータを各Y.E.Qの事務局サイトで持っているのでもデータを使ったりが欲しいと思う。

Q: ブロック大会は、詳細にまでほしい? 活動のためにも是非に活動してほしいのか?

A: 企業委員会検討、メンバーの為にするのだから賛成している地方を大切にしたい。しかし、会議の準備という立場や準備を考えると冗長については、マニュアルを尊重し、その他については中身を大切に活動・個性・企画を出せばいい。

Q: 各の団体との関係はしっかりしている。Y.E.Qであるとしてのもう少しハッキリとしたアドバンテージは?

A: 自分の会社を守って地域に貢献することがY.E.Q.

Q: 単会でも何が出来ると?

A: 単会では、会社を作りお城で活動しているところもある。地域連携の中で、お互いに情報交換をする。

Q: 全国協議について?

A: 志年長長をやるという関係に合わせる。大会をやることによって、その強みにより会員を増やすことが出来る。商会の議員組合に出て、議員の息子を青年部に入れてもらう。単会で、他に無いような研修会を実施することを各議所組合を通して各議所会長へ入会のアプローチをしてもらう。事業などの仕掛けをしていても、一般市民に商工会議所という名称だけで青年部という名称が出ていないのでは(認知してもらう)。

Q: 地域での中心部にY.E.Qの設立は得意ではないの?

A: 規模の大きさとJ.Cと比べて経済人だと思っている各議所の組合の方も少なくない。元気に活動していても青年部の設立には必要がないと思っている方も多くいるように、日商全国にも動員して行く。Y.E.Qが中心部に無いということは、大足はよく全国各地で認めていただいているのではと思う事もある。

Q: 補助金についてどう評価を取っているのか?

A: 財政的に厳しい中においても、Y.E.Qが補助されると補助があると嬉しい。カットされるとターゲット活動が悪いのではと思う。本質は、補助金についてはいかに付加価値を、どのように評価をどう考えていくかが今後の考えるところではないの。

Q: 所詮、各議所が中心に入っていないの?

A: 各地議所によって様々だが、全国24単会の中で14%の単会が商青連の定款に入っていないと聞いている。この件については、日商の定款にも商青連が記載されていないことにも関係があるのではと考えられるし、各議所の考えが異なるし、おだ、今後単会の協力により健全に認めていただくような積極的な事業をすることで定款に記載されるようになると思う。

Q: Y.E.Qと日商の関係性について?

A: いろいろから言われるが、政治との関係を持つことによって街も活発になると思う。政治と各議所という関わりとは考えず、行政と各議所との関わりというニュアンスでものを考えていく方がいいと思う。連携の関わり方は、青年部ということでも個人間の関わりの方がいい。様々なことで各議所とY.E.Qとの懇談会をしてもらいたいのではないかと。

Q: 商青連からのブロック大会等への勧誘を是非お願いしたいですか?

A: ブロック大会への勧誘を是非お願いしたい。

Q: アントレプレナーズ集議会の将来的展望は?

A: 参加しているメンバーが受益者になって、反響も強くなるからビジネスチャンスを作る。様々な取組を奨励し、単会によっては、役員受身を考えていく。

※その他、いろいろな質問事項があったが上記に掲載されている事に類似していることから代表的な事項として掲載しました。

※Qは、各ブロックでの単会会長からの質問 Aは、商青連会長。